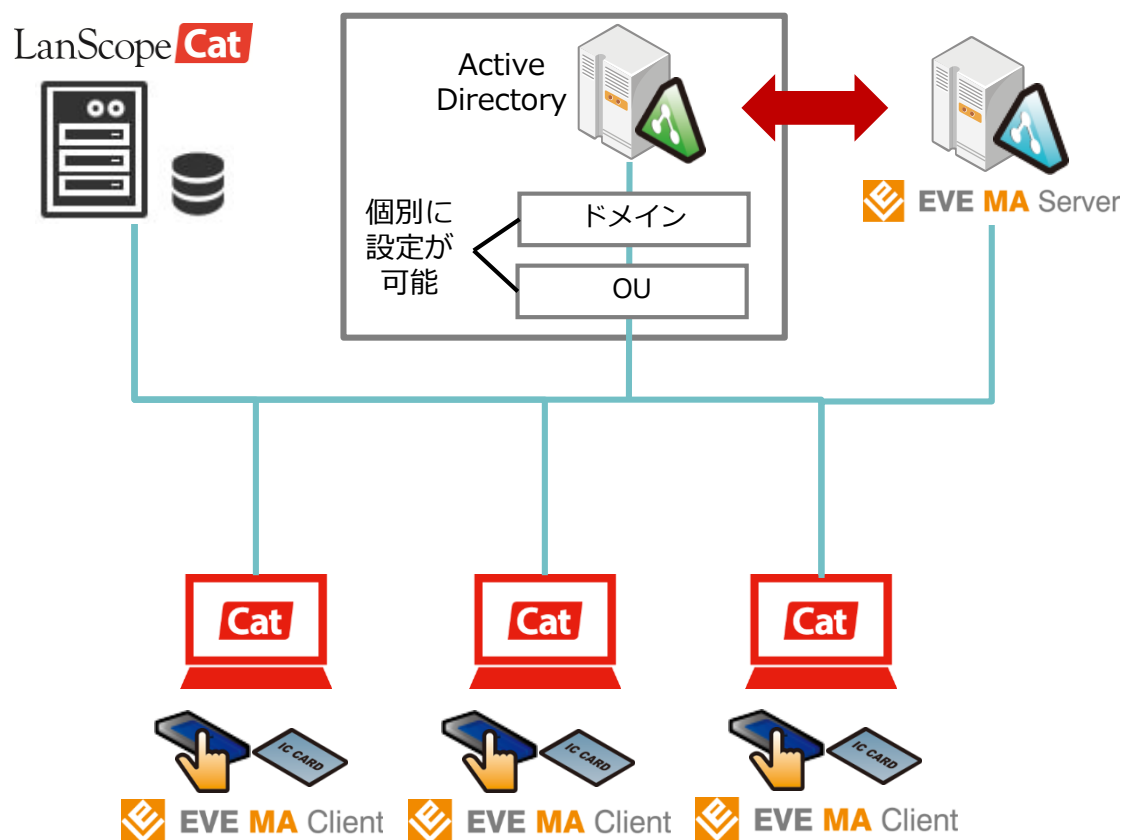


EVE MA

LanScope Catと連携したシステム展開

Catでドライバをインストールし、 EVE MAを利用可能な状態に！



EVE MAクライアントを LanScopeCatで配布インストールする手順

配布の流れ

- EVE MA クライアントをインストールする流れ
 - ドライバと、EVE MA クライアントの2つを配布インストールします。
 - EVE MA クライアントについては、配布用のMSIファイルを抽出する作業が事前に必要です。
 - 配布インストールは、LanScopeCat Ver.8.2で追加された「アプリやファイルの配布」機能で行えますが、それ以前のバージョンのことも考えて従来からある「パッケージ配布」機能を用いた例を記載します。
 - 本資料では、64bitOSに配布する例を記載します。32bitの場合は配布するファイルが異なるので置き換えて実施してください。

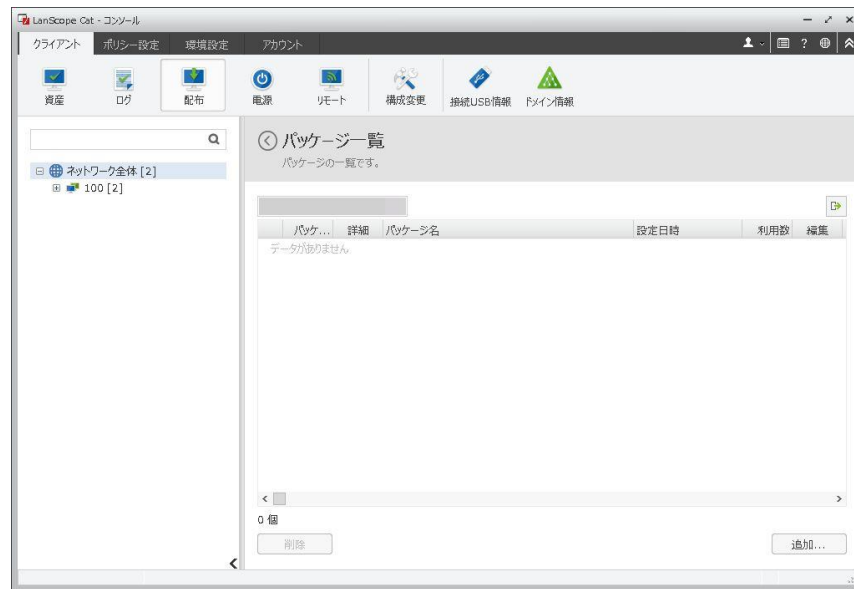
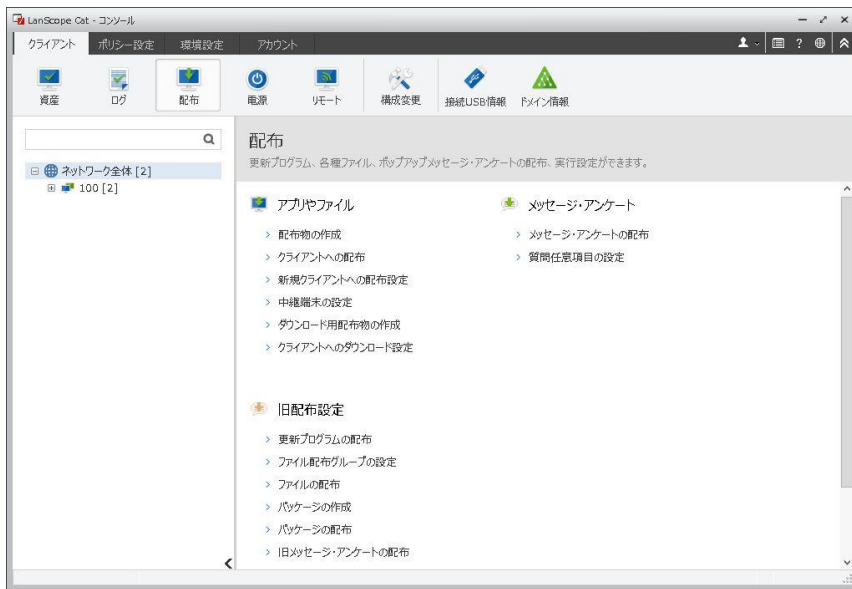
配布前の事前準備

- EVE MA クライアントのMSIファイルを得る
 - 任意のフォルダでコマンドプロンプトを使用して、Software¥x64¥clientにある、MAClient_x64_x.x.x.xxxxx.exeを、パラメータ /a を付与して起動します。
 - 「EVE MA Client All Products Installer.msi」が出力されるので、ファイルに含まれる半角空白文字を削除し、「EVEMAClientAllProductsInstaller.msi」としてください。なお、「program files」フォルダ、「Windows」フォルダも使用するため、削除しないでください。
 - Driverフォルダと「EVEMAClientAllProductsInstaller.msi」、「program files」フォルダ、「Windows」フォルダをファイルサーバーの共有フォルダにおいてください。これを配布対象とします。

パッケージ配布の設定

• パッケージの作成①

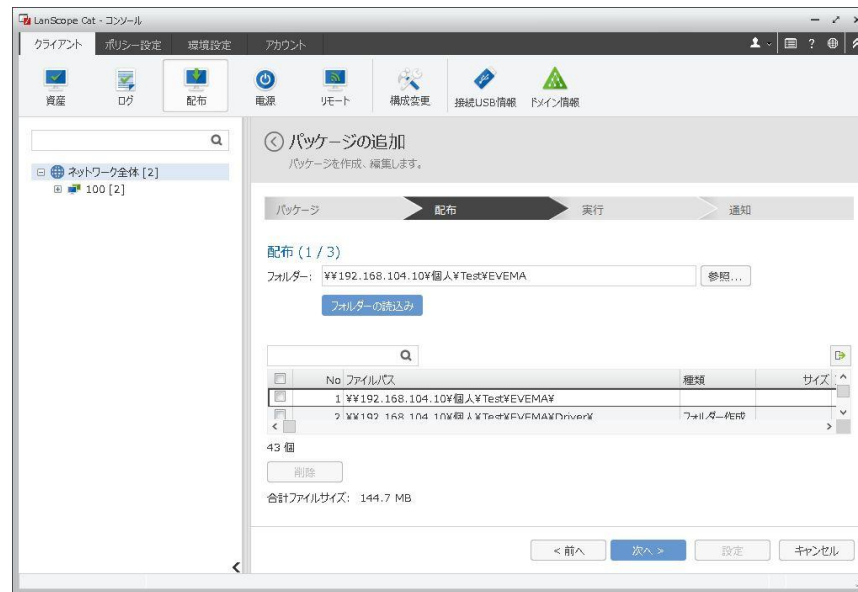
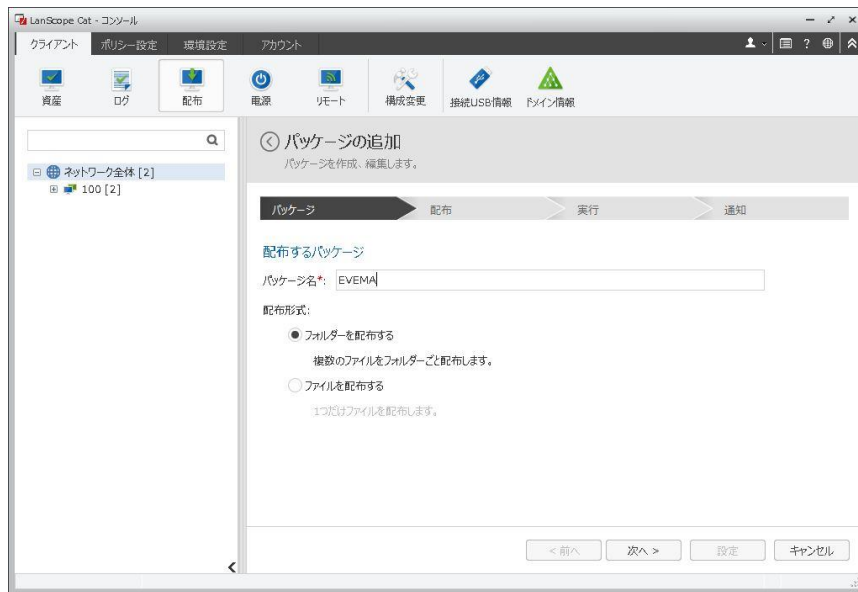
- 配布対象物「パッケージ」を定義します。
- コンソールのツールボタン「配布」をクリックし、表示されるメニューの中から、「パッケージの作成」を選択してください。
- パッケージ一覧画面が表示されるので、右下の追加ボタンを押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成②

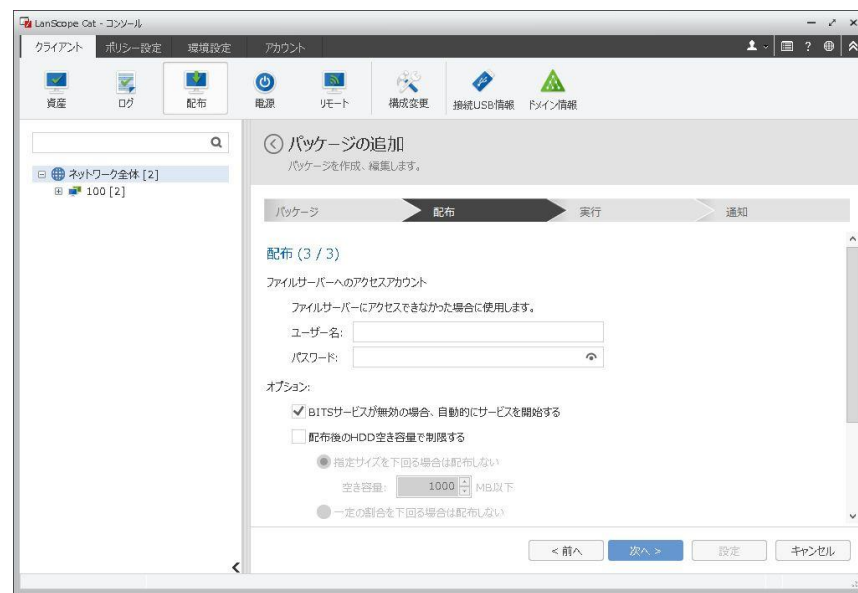
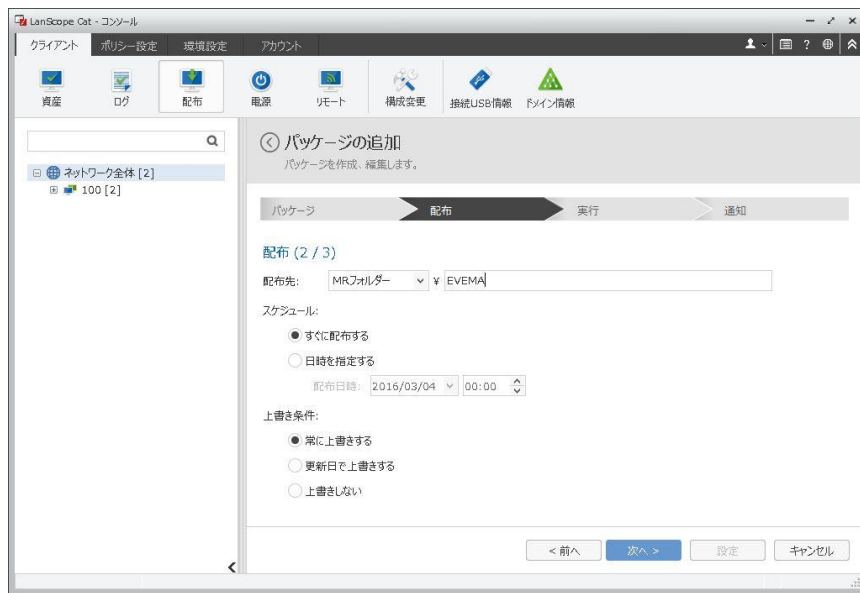
- パッケージの追加というウィザード画面が表示されます。
- パッケージ名を入力してください。例ではEVEMAとしています。その後「次へ」を押してください。
- 配布対象のファイル群を置いたファイルサーバーの共有フォルダのパスを指定し、「フォルダーの読み込み」を押してください。すると、下のグリッドに配布対象のファイル群が表示されます。その後「次へ」を押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成③

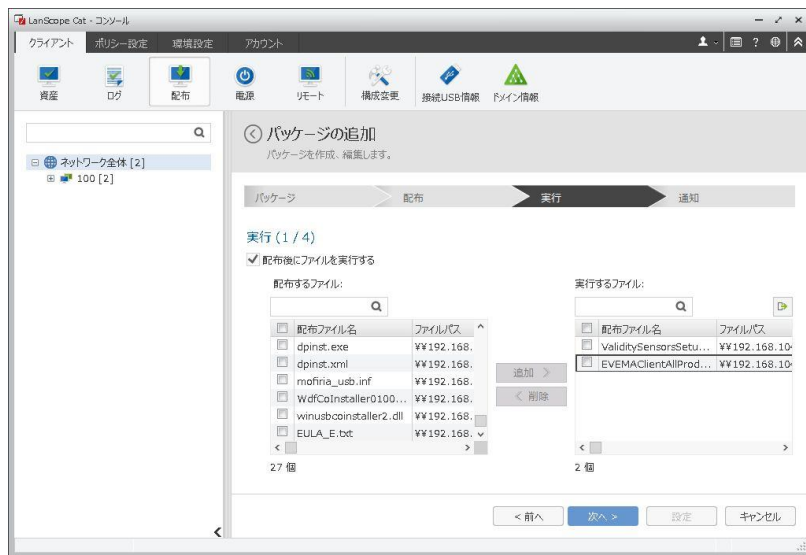
- 配布先の場所を指定してください。例ではMRフォルダーに、EVEMAというフォルダを作るように指定しています。その後「次へ」を押してください。
- クライアント端末がファイルサーバーの共有フォルダにアクセスするための設定を行います。クライアント端末にログオンするユーザーがファイルサーバーの共有フォルダにアクセスできない場合は、「ファイルサーバーへのアクセスアカウント」を指定してください。その後「次へ」を押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成④

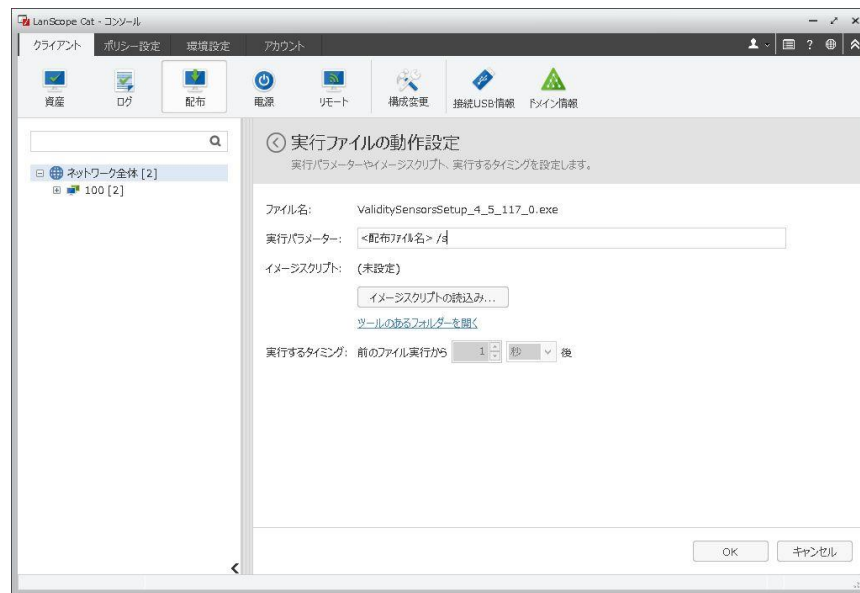
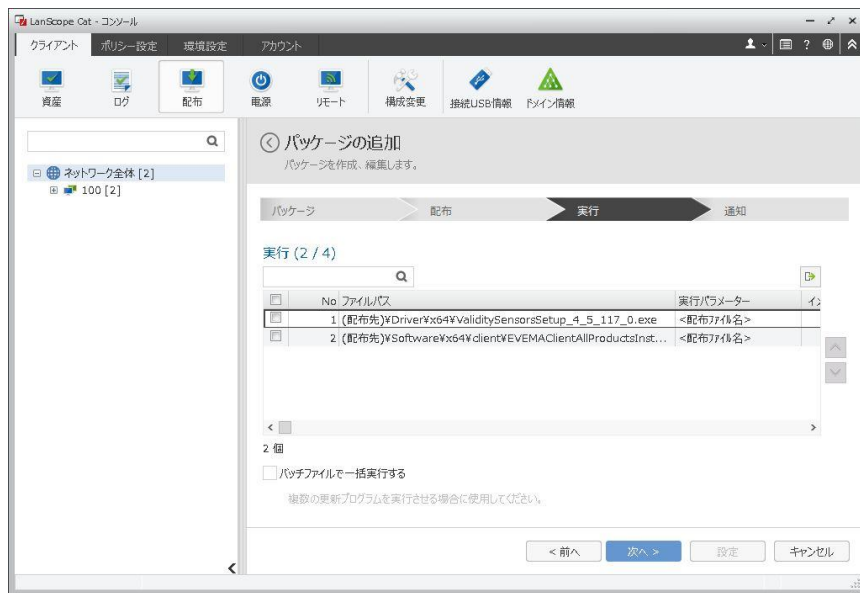
- 実行するファイルを指定します。本画面はウィンドウを全画面にすることで設定しやすくなります。
- ドライバーのインストーラー（共有フォルダパス¥Driver¥x64¥HybridFingerprintにあるValiditySensorsSetup_X_X_XXX_X.exe）にチェックをつけ、「追加」ボタンを押して右グリッドに移動させます。
- EVE MA クライアントのインストーラー（共有フォルダパス¥Software¥x64¥clientにあるEVEMAClientAllProductsInstaller.msi）にチェックをつけ、「追加」ボタンを押して右グリッドに移動させます。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成⑤

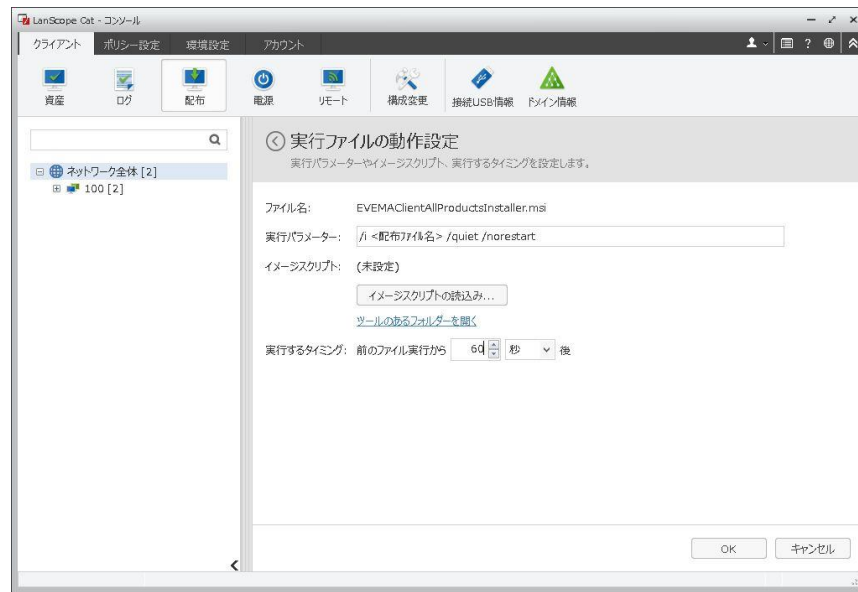
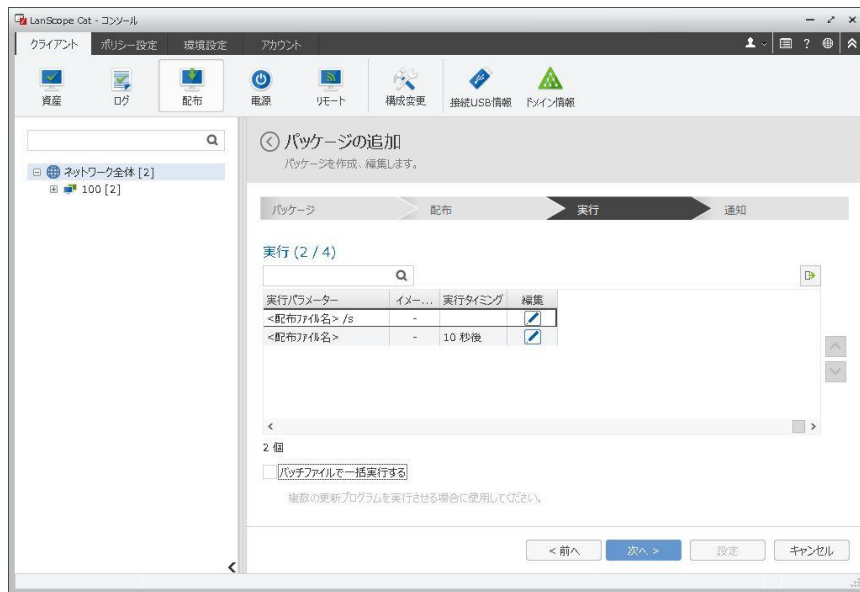
- 実行するファイルの詳細設定を行います。グリッドの1行目のファイルについて、グリッド右端にある編集ボタンを押してください。
- ValiditySensorsSetup_X_X_XXX_X.exeの、実行パラメーターを「<配布ファイル名> /s」としてください。/sの前には半角空白が必要です。
- OKボタンを押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成⑥

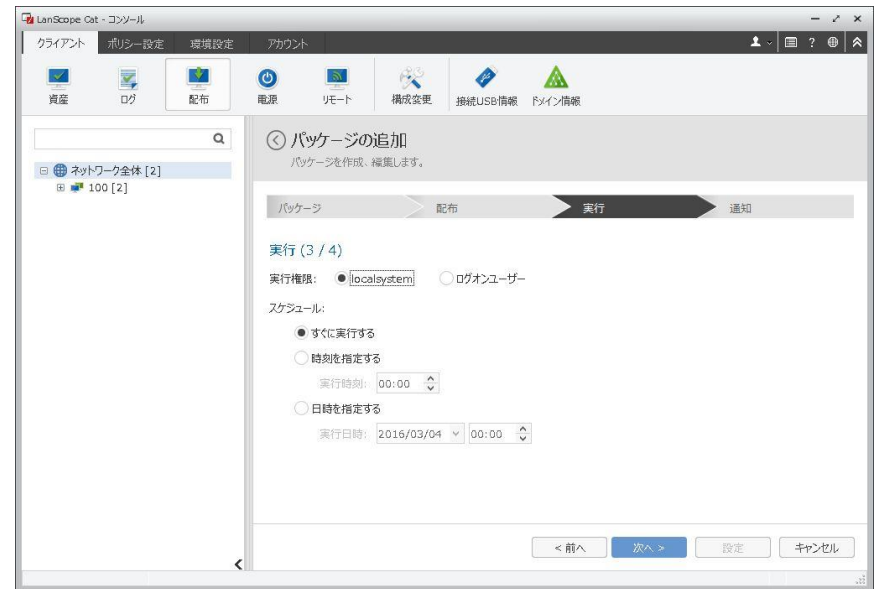
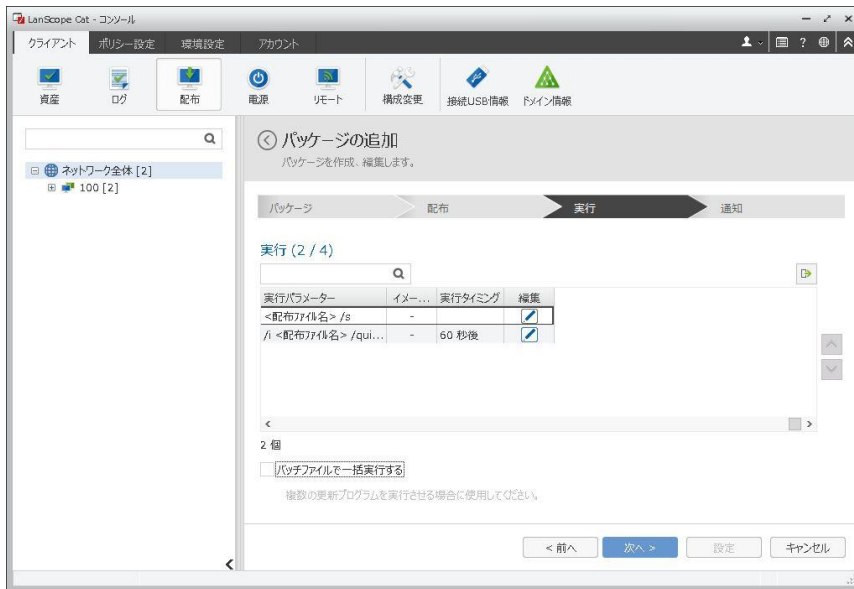
- グリッドの2行目のファイルについて、グリッド右端にある編集ボタンを押してください。
- EVEMAClientAllProductsInstaller.msiの、実行パラメーターを「/i <配布ファイル名> /quiet /norestart」としてください。/i の後、/quietの前、/norestartの前には半角空白が必要です。
- 実行するタイミングを60秒後にしてください。
- OKボタンを押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成⑦

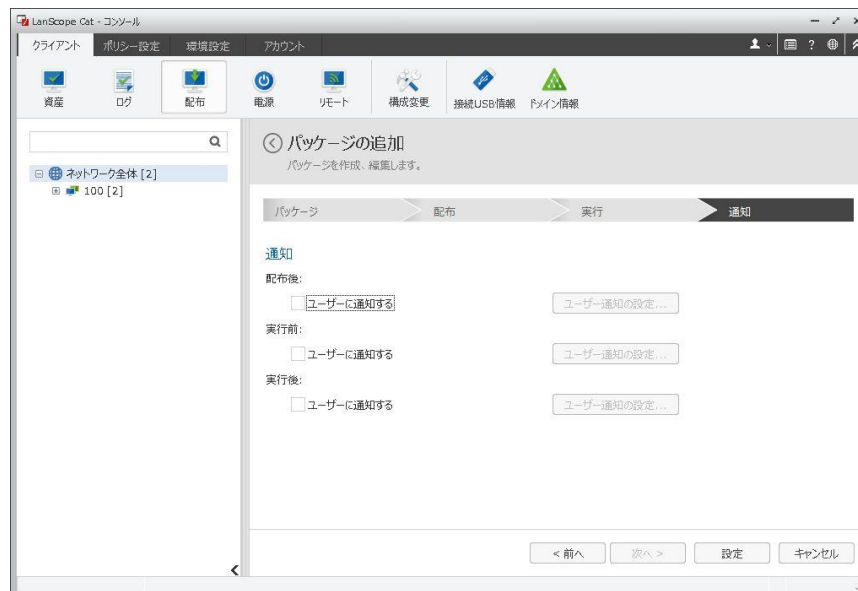
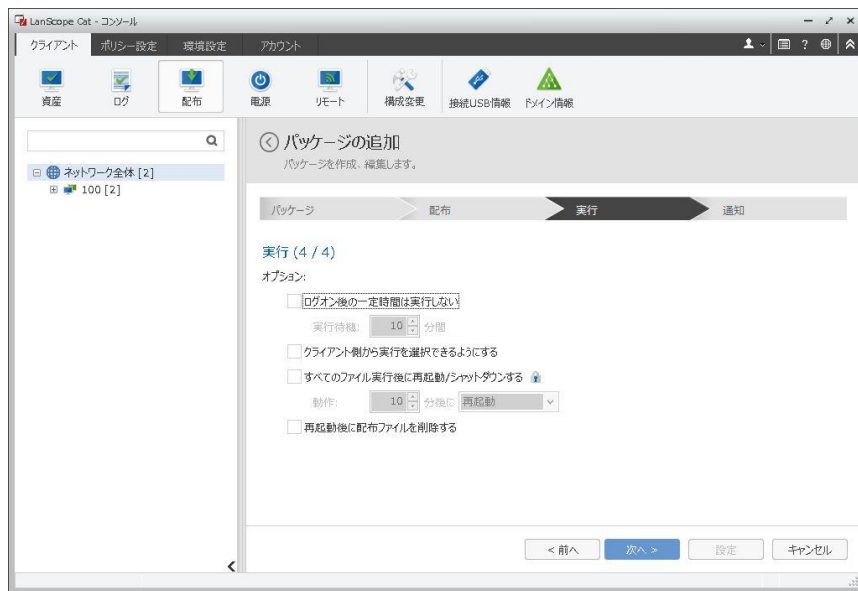
- 実行ファイルの一覧に戻るので、「次へ」を押してください。
- 実行権限、スケジュールはそのままに、「次へ」を押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの作成⑧

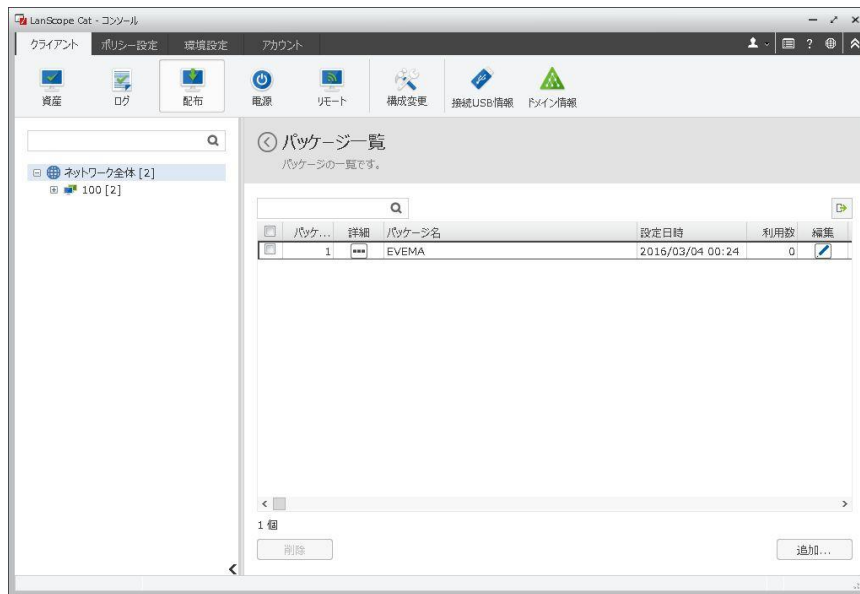
- オプションは指定せず、「次へ」を押してください。
- 通知は必要に応じて設定し、「設定」を押してください。



パッケージ配布の設定

- パッケージの作成⑨

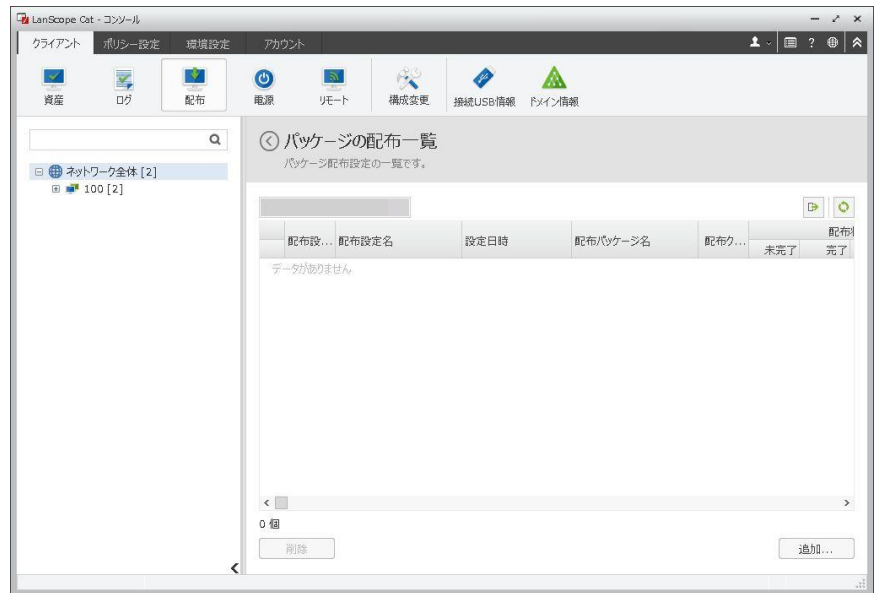
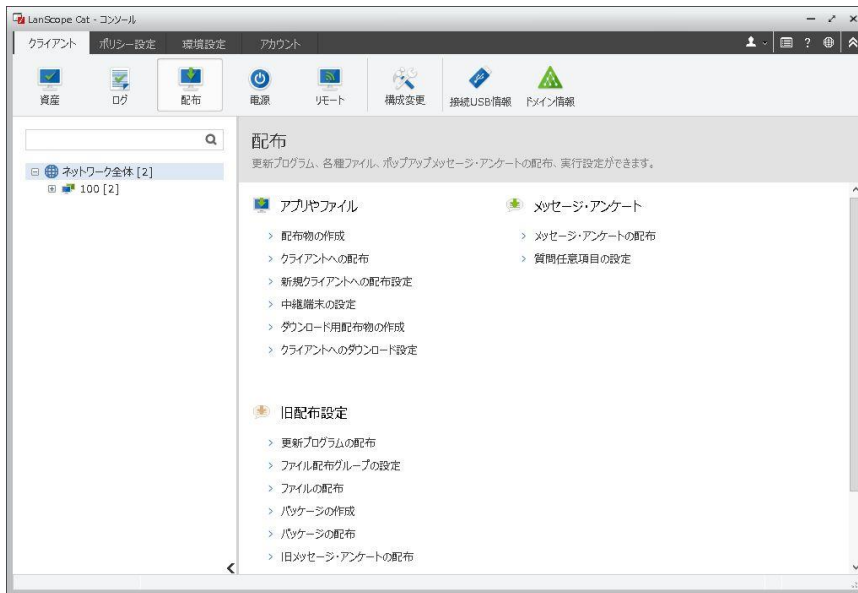
- 以上でパッケージの作成は完了です。
- 画面タイトルの「パッケージ一覧」の左にあるボタンを押して、メニューに戻ってください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの配布①

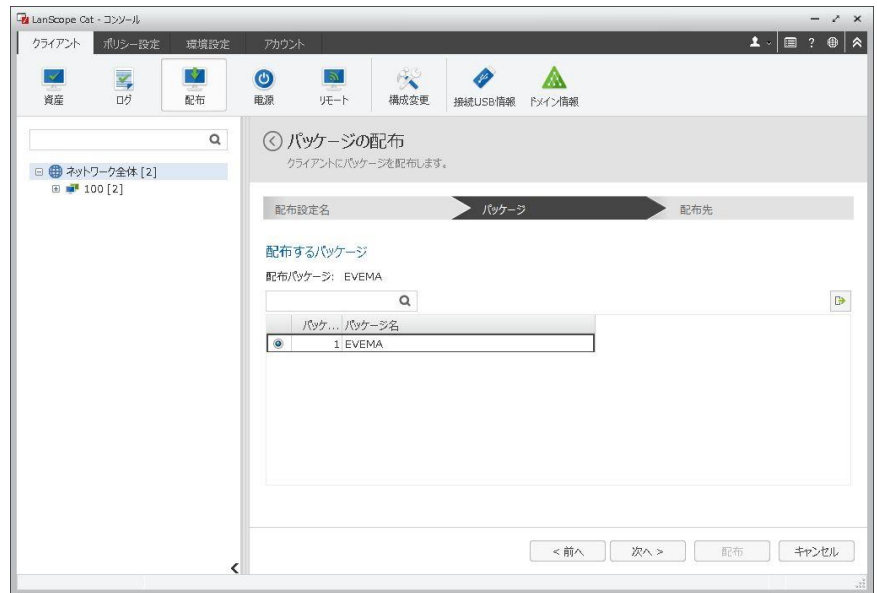
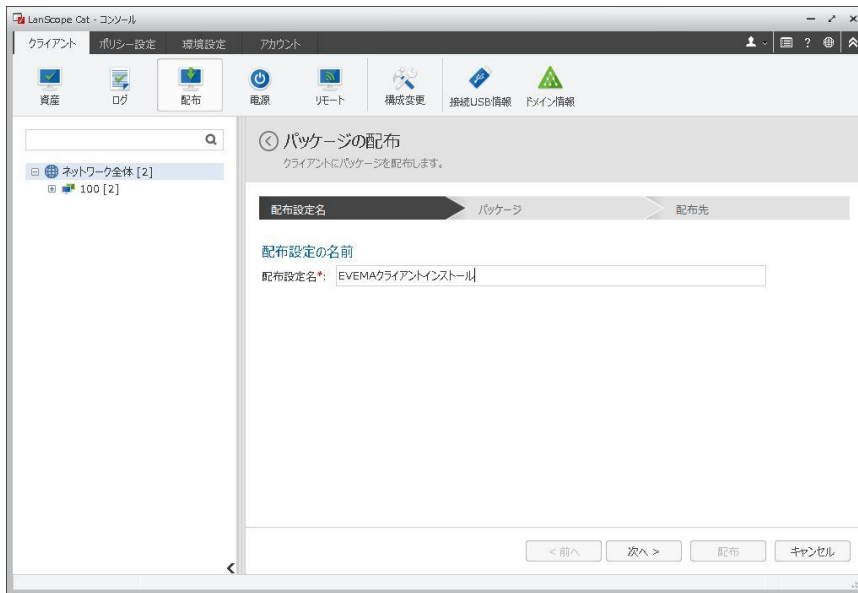
- 作成したパッケージを配布する設定を作ります。
- メニューから「パッケージの配布」を選択してください。
- パッケージの配布一覧が表示されるので、右下の「追加」ボタンを押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの配布②

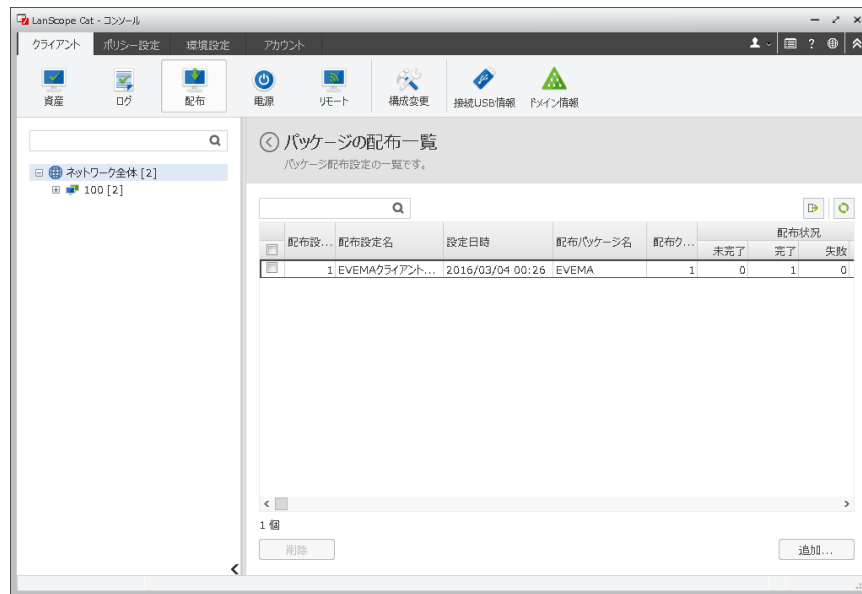
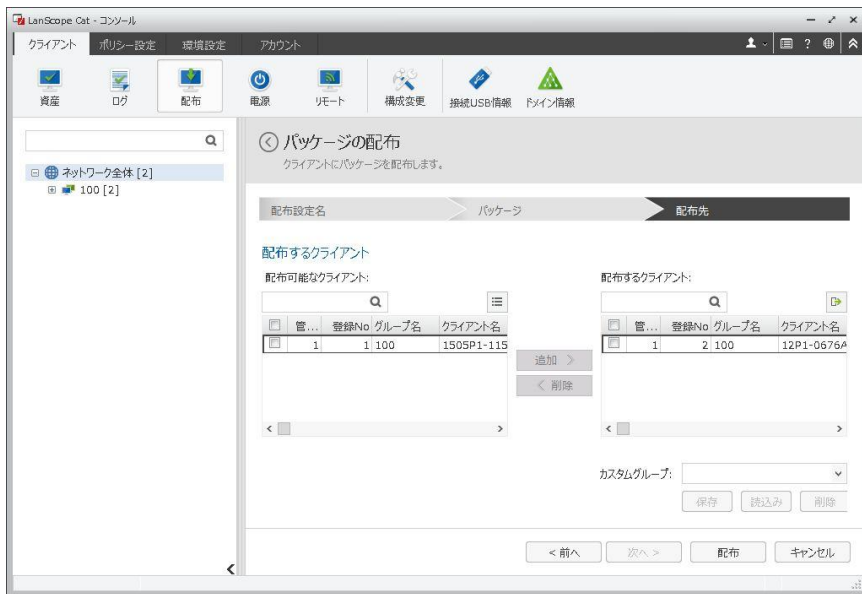
- 配布設定の名称を入力してください。例では、「EVEMAクライアントのインストール」としています。「次へ」を押してください。
- 配布するパッケージとして、先ほど作成したパッケージ「EVEMA」のラジオボタンにチェックを入れて、「次へ」を押してください。



パッケージ配布の設定

• パッケージの配布③

- 配布したいクライアントにチェックを入れて「追加」ボタンを押し、右のグリッドに移動させたのち、「配布」ボタンを押してください。
- これで配布の設定は完了です。
- メニューから「パッケージの配布」を選択して、パッケージの配布一覧を表示させ、グリッドの右上にあるリロードボタンを押すと結果が更新されます。グリッドの「完了」列が更新されたら、配布インストールが完了したことがわかります。



補足

相次ぐ 官公庁 での 個人情報流出

外部からの不正アクセスによる個人情報の流出だけではなく、内部関係者による情報流出が発覚しています。マイナンバー制度の本格稼動を踏まえ、官公庁様・自治体様にはセキュリティ対策の強化が強く求められています。

2015年6月以降に発覚したセキュリティ事件

発覚・公表日	発生組織	原因	内容
2015/6/1	日本年金機構	標的型攻撃	101万件の個人情報流出
2015/6/16	長野県上田市	標的型攻撃	流出は確認されず
2015/9/13	大阪府堺市	内部不正	68万件の個人情報流出
2015/9/18	神奈川県三浦市	内部不正	14万件の個人情報の不正持出し
2015/10/5	熊本県西原村	内部不正	18万件の個人情報の不正持出し
2016/3/2	岐阜県	内部不正	1万5000件の個人情報の不正持出しなど

求められる「三層の構え」

総務省は「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化に向けて」で各自治体に対し新たなセキュリティガイドラインを提示しています。

- ① マイナンバー利用事務系 **住民情報流出の防止**
- ② LGWAN接続系とインターネット接続系 **ネットワークの分離**
- ③ 自治体情報セキュリティクラウド **高度な情報セキュリティ対策**

① 住民情報流出防止 とは

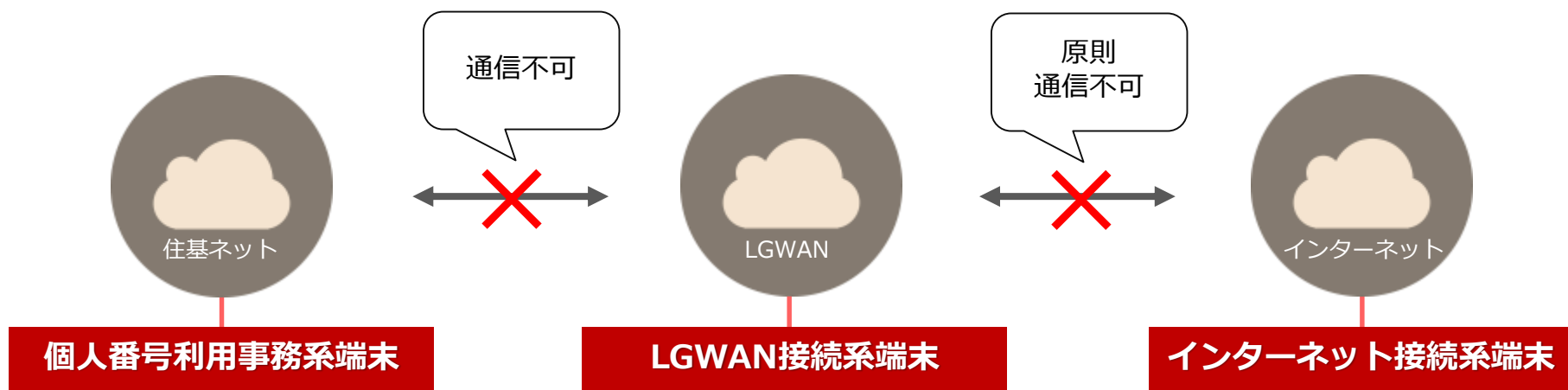
端末からの情報持ち出し不可設定や端末への二要素認証の導入等を
 図ることにより、**住民情報流出を防ぐ**ことが求められています。

自治体情報システム強靱性向上モデル 要件シート例 <住民情報流出防止 該当部分抜粋>

カテゴリ	個人番号 利用事務	LGWAN	インター ネット	対策内容	対応製品
端末	○	○	○	ソフトウェアの脆弱性対策や一般的なウイルス対策を実施すること。	LanScope Cat
	○	○		ID、パスワードのほかにも認証方法を導入し二要素認証とすること。 アクセス権を正しく設定すること。	EVE MA
	○	○		端末操作の記録およびサーバ等のアクセス先の情報資源に対する操作 の記録をとり、不正な利用を発見できること。	LanScope Cat
			○	アクセスの記録を残して不正な利用を発見できること。	LanScope Cat
			○	標的型攻撃など未知のウイルスに備えたセキュリティ対策を行うこと。	-
			○	WEB閲覧、メール文、添付については細心の注意を行うこと。 (マルウェア、ランサムウェア※等の対策)	-
媒体	○	○	○	USBメモリ等の外部記憶媒体による端末からの情報持ち出しが できないように設定すること。	LanScope Cat

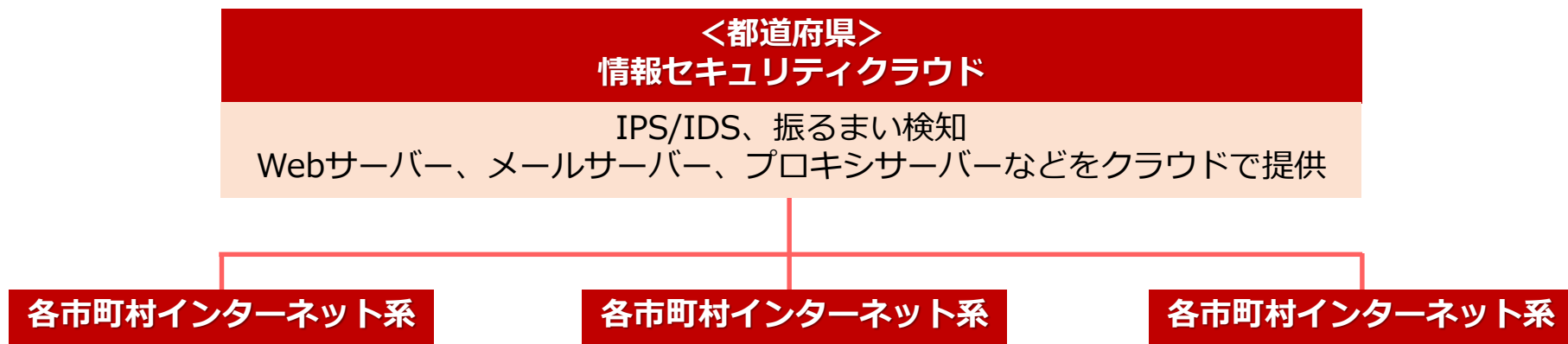
② ネットワークの分離とは

従来から行われてきた個人番利用事務系ネットワークの分離に加え、LGWAN環境のセキュリティ確保を目的に「**LGWAN接続系**」と「**インターネット接続系**」のネットワーク分離が求められています。



③ 高度な情報セキュリティ対策とは

インターネット接続系において、都道府県と市区町村が協力してインターネット接続口を集約した上で高度なセキュリティ対策を講じることが求められています。



④ 二要素認証とは

「知識」、「存在」、「所持」の3つの要素のうち
2つ以上を組み合わせる必要があります。

知識	存在	所持
<ul style="list-style-type: none">パスワードパスフレーズ暗証番号 など	<ul style="list-style-type: none">バイオメトリクス認証 (指紋、静脈等)	<ul style="list-style-type: none">ICカードUSBトークン など

以上
